

## 隅田荘中世地名考

勝田 至

はじめに

一 境原の地名

二 隈田北荘の地名

## 論文要旨

隈田の共同研究に参加するにあたり、豊富に残されている隈田の中世史料に現れる地名を現在の小字・小地名に比定する作業を行うことになった。中世前期の史料は名なの名で土地が表されることが多いため残存率は低い。中世後期の地名はかなりよく残っている。とくに史料の多い境原については、現在宅地造成で景観が一変しているが、開発以前の地図を用いて地名の聞き取りを行い、四至をはじめ主要な地名はほぼ比定できた。小峯寺領の範囲や、近世に堂座が存在した東光寺（薬師堂）が中世には小峯寺近くの東谷川南岸

にあつたことなどが判明し、葛原家文書に残されている近世の境原絵図も用いることよって、小峯寺周辺の景観はかなり復元できるが、領主葛原氏の屋敷跡の正確な所在地は確定しがたい。紀ノ川以北の北荘については小字レベルの比定を行ったが、高野山文書中に史料が残されている南荘については今回は考証の対象外とした。付図「境原主要部」および「隅田荘大字・小字図」をあわせ参照されたい。後者は南荘および現在五條市域の木ノ原・畑田をふくめ荘域のほぼ全体を含んでいる。